

道徳学習指導略案

2年3組 27名 指導者 西國原 拓也

本授業は、以下の検証を行うものである。

- 問い直す活動において、子どもの思考を促し、考えをつなぐ発話をしたり、「つなぐ」名人カードを活用して対話活動を行ったりすることは、子どもが道徳的価値の理解を深める手立てとして有効であったか。
- 問い直す活動において、板書に「見える図」を用いることは、道徳的価値について多面的に考える手立てとして有効であったか。

1 主題名 働く楽しさ（資料名「野さいパーティー」〈読み物－学研教育みらい〉）

2 ねらい

自分やみんなのためにする仕事を楽しみ、進んで働こうとする態度を育てる。

（4－② 勤労）

3 指導に当たって

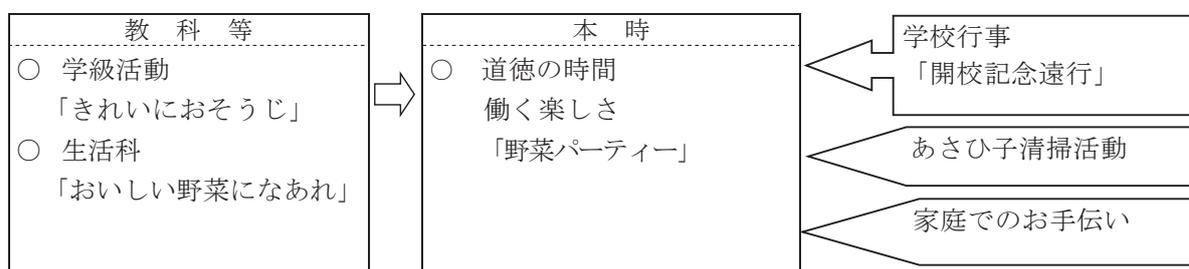
「見つめる」活動では、アンケートの結果を基に、楽しく仕事ができたとできなかった時の体験やそのときの心情を想起することができるようにし、「楽しく仕事をするためには、どんな気持ちが必要だろう。」という共通の問題意識を練り上げることができるようにする。

「問い直す」活動では、まず、ともちゃんが、朝も昼休みも農園に行って野菜に声をかける場面において、自分の体験を想起させることで、ともちゃんの気持ちに共感することができるようにする。中心発問においては、暑くてきついのに、野菜の世話を頑張るともちゃんの場面を取り上げるようにする。その際、ともちゃんの気持ちを一人で考えた後、ペアで対話活動を行う。対話活動を行うことで、道徳的価値に対する自分の感じ方や考え方を明確にしたり、多様な考え方に気付いたりすることができるようにする。また、教師と子どもで役割演技をすることで、ともちゃんの気持ちにより共感することができるようにする。その際、「つなぐ」名人カードを活用し、道徳的価値の理解を深めるようにする。さらに、板書において、自分、他者、集団・社会の三つの視点で「見える図」（Yチャート）を活用して、道徳的価値について多面的に考えることができるようにする。

「振り返る」活動では、事前に道徳的価値について考えた「見える図」に、本時の学習で分かったことやこれまでの体験やその気持ちを書き加えることで、授業後の深まりを実感することができるようにする。

「あたためる」活動では、「わたしたちの道徳」の言葉や進んで仕事ができている様子を紹介することで、みんなのために働くことのよさを実感させ、道徳的実践意欲を高めることができるようにする。

4 他教科等、体験活動との関連



5 資料について

本資料は、働くことで役に立つうれしさ、やりがい、自分の成長などを感じられる資料である。

主人公のともちゃんが、学校の農園に野菜を植えて、手が泥だらけになったり、顔は汗びっしょり、なったりしながら、野菜を育てる。また、登校すると朝は農園に行って、野菜に声を掛けたり、昼休みは、草とりをしたりし、野菜が大きく育つことを楽しみにしている。しかし、草取りを何回しても草が伸びてしまう。そこで、一緒に農園に行く友達が一人から二人に増えて、畑はどんどんきれいになる。大きな実の収穫ができ、みんなで野菜パーティーを開くことになる話である。

6 本時の展開

□ 重点化するスキル

[] 子どもの意識

○ 教師の手立て

※ 評価

道徳

過程	時間	主な学習活動	教師の手立て
見つめる	3	1 楽しく仕事ができなかった体験やできなかった理由について想起する。 [<ul style="list-style-type: none"> ・ 係活動を頑張っているなあ。 ・ 誰かがするだろう。 ・ 面倒くさいなあ。] 2 本時のめあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 楽しく仕事をするためには、どんな気持ちが大切だろう。 </div>	○ 働くことは大切だと思いながらも、自己中心的な考えから進んで働くことができなかったこともあることに気付かせることで、共通の問題意識を練り上げることができるようにする。 ○ めあてを全員で一読することで、全員が確認することができるようにする。
問い直す	28	3 資料「野さいパーティー」を見て、ともちゃんの気持ちを中心に話し合う。 (1) ともちゃんはどんな気持ちで、朝も昼休みも農園に行ったのかを考える。 [<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分にできることをしたいなあ。 ・ 大きくなってほしいなあ。 ・ 早くみんなで食べたいなあ。] (2) 暑くてきついのに、野菜の世話を頑張るとともちゃんは、どんな考えや気持ちを大切にしたいのか考える。 [<ul style="list-style-type: none"> ・ 野菜が大きく育ててほしいなあ。 ・ 友達が協力してくれるからうれしい。 ・ みんなのために頑張ろう。] (3) ともちゃんは、どのような気持ちで野菜パーティーをしたのだろう。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin: 5px 0;">分類する</div> [<ul style="list-style-type: none"> ・ 一生懸命世話をしてよかったなあ。 ・ 一緒に行ってくれてありがとう。 ・ みんなのやくにたったなあ。]	○ ともちゃんの気持ちを考えることで、自分の体験と関連付けながら働くことの意義について気付くことができるようにする。 ○ 中心発問において、ペアで対話活動を行うことで、道徳的価値に対する自分の感じ方や考え方を明確にしたり、多様な考え方に気付いたりすることができるようにする。 ○ 役割演技を通して、ともちゃんの心情に迫ることができるようにする。 ※ 中心発問に対する考え方を机間指導において次の視点で評価する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> ア 自分の気持ちを中心とした考え方 イ 他人への思いを中心とした考え方 ウ 集団・社会への思いを中心とした考え方 </div>
振り返る	10	4 本時の学習の感想を書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin: 5px 0;">関連付ける</div> [<ul style="list-style-type: none"> ・ 一生懸命働くと、気持ちがすっきりするので、係の仕事をもっとがんばりたいなあ。 ・ 友達が手伝ってくれると、さらに、働くぞという気持ちになるので、友達の仕事も手伝いたいなあ。 ・ 一生懸命働くことで、みんなが笑顔になるんだなあ。みんなのためにもっと働きたいなあ。]	○ 振り返る活動において、中心発問で板書した「見える図」(Yチャート)と自分の体験や心情を関連付けて考えさせることで、道徳的価値についての自覚を深めることができるようにする。 ○ 振り返る活動において、事前に道徳的価値について考えた「見える図」に書き加えることで、授業後の深まりを実感することができるようにする。
あたためる	4	5 教師の説話を聞く。 [<ul style="list-style-type: none"> ・ 私の仕事は、みんなの役に立っているのだなあ。これからも、みんなのために働いていきたいなあ。]	○ 「わたしたちの道徳」の言葉や進んで仕事ができている様子を紹介することで、道徳的実践意欲を高めることができるようにする。